

Musical Italophilia in London

イタリアへの憧憬

～18世紀ロンドンのイタリア趣味～

N. マテイス: ソナタ ハ長調

A. コレリ: ソナタ第10番 ヘ長調 op.5-10 (M.デュブルグによる装飾付)

R. ジョーンズ: ソナタ第4番 イ短調 op.2-1

F.A. ボンボルティ: インヴェンション第4番 ト短調

N. ポルポラ/G.B.コスタンツィ: ソナタ第6番 ト長調

F. ジェミニアーニ: ソナタ第1番 二長調 op.4-1

P. D. パラディエス: ソナタ第9番 イ短調



Asuka Sumi

鷲見明香

バロック・ヴァイオリン



Asako Ueda

上田朝子

テオルボ



Takashi Kaketa

懸田貴嗣

バロック・チェロ



Miho Hirai

平井み帆

チェンバロ

2023年

8月11日 (金・祝)

14:00開演 (13:30開場)

今井館聖書講堂

東京都文京区本駒込6-11-15

山手線「駒込駅」下車徒歩11分、南北線「駒込駅」下車徒歩8分

都営三田線「千石駅」下車徒歩5分

主催・お問合せ

ミューズコンサート企画

TEL & FAX 0422-44-5306

muse_cp@mbr.nifty.com

チケット料金 (全席自由)

前売り	4,000円
当日	4,500円
学生	2,500円

チケット取り扱い

東京古典楽器センター tel 03-3952-5515

TIGET <https://tiget.net/events/237141>



スマホでQRコードを読み取って
簡単アクセス!

【Italophilia: イタリアの文化、芸術、思想を好み、賞賛し、模倣すること】

絵画、建築、音楽、あらゆる分野においてイタリアは、中世・ルネサンスからバロック時代にかけて常に流行の最先端であり、ヨーロッパ諸国の憧れ、理想でした。

1689年の名誉革命後、経済的繁栄を迎えたロンドンには、多くの音楽家が名声と富を求めてイタリアから海を渡り、N. マテイス、F. ジェミニアーニ、パラディエスなどの優れた演奏家たちは、忽ち音楽愛好家達に保護され、ソリスト、教師として活躍し、数多くの作品を出版しました。

また、当時の青年貴族の教育の一環であったグランド・ツアー Grand Tour もロンドンのイタリア音楽の需要に一役買いました。ローマやヴェニスを訪れた彼らの旅の土産には絵画や家具だけでなく、最新の出版譜、そして音楽家自身も持ち帰られました。

なかでも、コレッリのヴァイオリン・ソナタ作品5に代表されるイタリア様式の独奏ソナタはイギリスでは「ソロ Solo」と呼ばれ、独自の発展を遂げます。

本プログラムでは、ロンドンで出版されたイタリア人作曲家の作品だけでなく、ジェミニアーニの弟子で神童と謳われたM. デュブルグの未出版の変奏曲、オペラの巨匠ボルボラとローマの名チェリスト、G.B. コスタンツィによる6曲のセットからコンチェルト風チェロ・ソナタ、独自の魅力を持つイギリス人作曲家リチャード・ジョーンズのヴァイオリン・ソナタなど、音楽の都で華開いた弦楽のための「ソロ」作品の数々をお楽しみ頂きます。

出演者プロフィール

鷺見 明香 (バロック・ヴァイオリン)

東京藝術大学古楽科卒業及び大学院修了。アムステルダム音楽院古楽科マスターディプロマ取得。国際 H.I.F. ビーパーコンクールにて第2位を受賞し、ウィーン・コンツェルトハウスにてリサイタル。セコンダ・プラティカ(CD『Nova Europa』)の結成メンバーとして欧州各地の主要音楽祭に出演し、2018年には来日公演(朝日新聞文化財団及び野村財団助成公演)が好評を博した。英国に移住後、ガブリエリ・コンソート等の名門オケのメンバーとして活躍する傍ら、リーズ・バロック、ロンドン・オペラ・カンパニー、ケンブリッジ・ヘンデル・オペラ等でリーダーを務める。またヨーク大学やリーズ大学に講師として招かれるなど後進の指導にも力を入れている。2021年プレミオ・ボンボルティファイナリスト。

上田 朝子 (テオルボ)

4歳より音楽を学び始め、桐朋学園大学ヴァイオリン科を卒業、同大学作曲科修了。オランダのハーグ王立音楽院学部リュート科を最高得点主席で卒業し同音楽院修士課程を優秀賞付き、学費免除で修了。のち、オランダのベルンハルト王子奨学金を得てパーゼル・スコラ・カントルム中世・ルネサンス科で修士課程を修めた。リュートをマイク・フェントロス、ヨアヒム・ヘルトの各氏、バロック・ヴァイオリンをエンリコ・ガッティ氏に師事。ピアージョ・マリーニ古楽コンクール第1位、ファン・ヴァセナール古楽コンクール第3位、ロンドン国際古楽コンクール第2位受賞。ヴァイオリンと作曲を勉強した経験を活かし、通奏低音とルネサンス期の編曲技法の研究、実践に注力している。

懸田 貴嗣 (バロック・チェロ)

東京芸術大学院修了後、ミラノ市立音楽院で学ぶ。イタリア・ボンボルティ国際古楽コンクールで第1位、聴衆賞を受賞。パッサ・コレギウム・ジャパン、リクレアツィオン・ダルカディア、ラ・ヴェネシアーナのメンバーとして、国内のみならずヨーロッパ諸国などの世界各地の音楽祭に出演している。これまで通奏低音奏者としてエマ・カークビー、ミカラ・ベトリ、エンリコ・オノフリなど多くの著名なソリストと共演している。CD「ランゼッティ/チェロ・ソナタ集」で文化庁芸術祭優秀賞を受賞。主宰するアンサンブル・パルテノペ公演のプロデュースなど活動の幅は益々広がっている。2021年度より下田国際音楽コンクール審査員。

平井 み帆 (チェンバロ)

桐朋学園大学ピアノ科卒業。同大学研究科、デン・ハーグ王立音楽院(チェンバロ専攻)修了。有田千代子、J. オッホの各氏に師事。北とびあ国際音楽祭、栃木「蔵の街」音楽祭等、主要な音楽祭に出演する他、各地で活発な演奏活動を行っている。CDに「イタリアへの夢I, II, III」(いずれもレコード芸術誌特選盤)、「ブクステフーデ: ヴァイオリン、ヴィオラ・ダ・ガンバ、チェンバロのためのソナタ全集」(文化庁芸術祭レコード部門優秀賞)等がある。現在、愛知県立芸術大学非常勤講師、富山古楽協会チェンバロ講師を務める他、兵庫、東京での「通奏低音講座」「バロック舞曲講座」、オンラインでの「通奏低音&音楽理論講座」などバロック音楽とチェンバロの魅力を伝えるマスタークラスを行っている。

会場アクセス

今井館聖書講堂

東京都文京区本駒込6-11-15

JR山手線「駒込駅」より徒歩11分

東京メトロ南北線「駒込駅」より徒歩8分

都営地下鉄三田線「千石駅」より徒歩5分

六義園の裏手、六義公園運動場側。



撮影 浅川敏氏